

CPITN は、WHO が地域で歯周疾患の実態と治療必要度を調べる指数として提唱したものである。実際には、Periodontal probe を用いて、 $\frac{76}{76} \frac{1}{1} \frac{67}{67}$  を対象にして行った。

- 0：歯肉が健全であるとき
- 1：探針での診査中に、あるいはその後に出血が認められたとき
- 2：歯石が存在するとき、歯周ポケットの診査中に歯石がみえたり、歯肉探針に触れたりするとき
- 3：歯肉探針の黒い部分が歯肉縁にあるとき、つまり、歯周ポケットの深さが4～5 mm であるとき
- 4：歯肉探針の黒い部分が歯周ポケットの中に入ってみえなくなったとき、つまり、歯周ポケットの深さが6 mm またはそれ以上になったとき

歯口清掃度の評価は Quigley-Hein の Plaque Index (PI-I) を用いて行った。

- 0：plaque なし
- 1：歯肉縁に数か所 plaque が付着している
- 2：歯肉縁に沿って plaque が付着
- 3：歯肉側1/3に plaque が付着
- 4：歯面の2/3が plaque に被われている
- 5：歯面の2/3以上が plaque に被われている

対象は、次の6歯面で行った。

- ①上顎右側中切歯唇面
- ②下顎左側中切歯唇面
- ③上顎左右側第一大臼歯頬面
- ④下顎左右側第一大臼歯唇面

## 結果 ■■■

図4に示した。開始1週間後には開始前に比べて、両群とも変化に乏しかったが、3週目になると半導体歯ブラシ群が対照群に比べてかなりの改善がみられた。3週間使用時点で統計的にも有意差が認められた。

## 2. CPITN

つぎに CPITN の変化を表4、図5に示した。半導体歯ブラシ群は、使用週間の経過とともに漸次減少傾向を示した。しかし、両群ともバラツキが大きく統計的有意差は認められなかった。

## 3. PI-I

歯口清掃状況を PI-I によって評価したところ、表5、図6に示すように両群ともに漸次減少傾向にあった。しかし、各週とも両群の差はほとんど認められなかった。

なお、3週間時点で半導体歯ブラシ使用前およびその2%スリスロシン液染め出し状態、さらに歯ブラシ使用後に再度染め出した状態の口腔内写真の一例をA1～3に示した。

## 考察 ■■■

われわれが歯ブラシの良否を判断する基準として、植毛部、把柄部を含めた歯ブラシの総合的な形態に依っているのが現状である。毛先による物理的な歯垢除去なり、マッサージ効果だけでなく、さらに化学的な作用が付加することにより、より効果的に歯や歯周組織の健全な維持改善がなされるなら望ましいことである。

今回、われわれが用いた歯ブラシは半導体歯ブラシ、プラセボ歯ブラシともに同形態であり、被験者、検査者に特別な意識が起らないようにした。また、歯ブラシの毛の硬さ、

## 1. PMA-I

3週間の半導体歯ブラシ連続使用によるPMA-Iの変化を、対照群と対比させて表3,

形態上の違いからくるブラッシング効果の違いも排除した。

実験に供した歯ブラシは、基本的にはスト